

学修成果の把握

一 文部科学省 「大学における教育内容等の改革状況調査」より一

学生の学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与を行う、あるいは卒業判定を行うということではなく、アセスメント・テスト等を用いることにより客観的な測定方法で学生の学修成果の把握を行うことをいいます。

学修成果として次のような事項について調査・測定等を行うことが求められています。

- a 知識・理解（例：文化、社会、自然に関する知識の理解）
- b 汎用的能力（例：コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力）
- c 獲得した知識等を活用し、新たな課題に適用し課題を解決する能力
- d 態度・志向性（例：自己管理能力、チームワーク）
- e 専門的な知識
- f 専門的な技術や技能
- g 専門職業人としての倫理観

※参考 「私立大学等の改革総合支援事業」調査票より

学修成果の把握とは、学修前と学修後の双方の時点において、より客観的な測定・調査等を実施することにより、成績推移等から教育成果を把握することをいいます。

学生全員を対象とし、記名式により在学期間中に少なくとも2回以上測定・調査等を実施し、学生個人に着目して把握することが必要になります。

把握の方法としては、以下があります。

- ① 外部の標準化されたテスト等による学修成果の調査・測定（アセスメントテスト等）
- ② 学生の学修経験等を問うアンケート調査（学修行動調査等）
- ③ 学修評価の観点・基準を定めたルーブリック
- ④ 学修ポートフォリオ

把握した学生の学修成果に関する情報の大学教育等の改善への活用としては、以下があります。

- ① 教育課程や教育方法の改善
- ② 学習支援環境の整備
- ③ 学生の就学支援
- ④ 学生への履修指導やキャリア相談